



週報

■事務局/〒706-0011 玉野市宇野1-11-1
 TEL. 0863-33-2228 FAX. 0863-33-2225
 ホームページ <http://www.tamano.or.jp/rotary>
 E-mail tamanorc@tamano.or.jp

■例会場/瀬戸大橋カントリークラブ
 〒706-0153 玉野市滝1640-1
 TEL. 0863-71-4500 FAX. 0863-71-4509

■例会日/毎週金曜日(12:30～13:30)

No.2037	
12月4日例会 プログラム	「忘年家族例会」 於：ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル
12月11日例会 プログラム	「ロコモティブシンドローム」 岸本 昌法君
12月4日のメニュー	・和洋折衷卓上ブッフェ

前回(11月27日)例会記録

出席報告	会員総数	33名	出席者数	25名	欠席者数	8名	出席率	75.76%	前回補正率	81.82%
	前回補正者	藤田君 東川君 近藤君 大西君								
	欠席者	林君 井上君 松尾君 三谷君 三宅(照)君 仲田君 小野君 山田(次)君								

来訪者 大阪リバーサイドRC 伊藤 定夫様(会長)、垣内 康弘様(パスト会長)、藤井本 一博様(幹事)
 藤井 武治様(30周年実行委員長)、中山 正隆様(30周年実行副委員長)
 伊丹有明RC 寺田 明広様
 富士ゼロックス岡山㈱ 代表取締役社長 大段 和廣様

会長挨拶

本日のゲストの方をご紹介します。富士ゼロックス株式会社の大段和廣様です。ようこそいらっしゃいました。後程、卓話を頂きます。それから、友好クラブである大阪リバーサイドロータリークラブの皆様です。会長の伊藤定夫様、30周年実行委員長の藤井武治様、同副委員長の中山正隆様、パスト会長の垣内康弘様、幹事の藤井本一博様です。続きまして伊丹有明ロータリークラブの寺田明広様です。皆様ようこそいらっしゃいました。後程、大阪リバーサイドロータリークラブの会長と30周年実行委員長からご挨拶を頂きます。



バナー交換

それではここで伊丹有明ロータリークラブとバナーの交換をさせていただきます。さて、早いものでもう12月になりますが、12月は「地球温暖化防止月間」です。国民、事業者、行政が一体となって温暖化防止への啓蒙活動をはじめとする様々な取組みが行われます。ところで日本は京都議定書の下で、2012年度までの5年間で温室効果ガスの排出量を基準年の90年度に比べて6%減らすという義務を自らに課しました。初年度である08年度の排出量は前年より6.2%急減したそうですが、これは前向きな削減努力が実を結んだわけではなく、昨年秋のリーマン・ショック以降の世界的な景気後退により日本の企業や家庭のエネルギー消費も少なくなった大不況に負うところが大きいです。今後は税収を環境産業や省エネ技術の育成に投入して頂き、その分野での雇用の拡大を通して是非持続的な経済成長を達成したもとの家庭・企業の削減努力によって削減義務を達成してほしいものです。

大阪リバーサイドロータリークラブ伊藤会長挨拶

大阪リバーサイドRC会長の伊藤でございます。本日は、30周年実行委員長はじめ5名のメンバーで友好クラブである玉野RCの例会に出席させて頂いております。4月8日(木)のスケジュール・内容につきましては後程実行委員長から詳しく説明させていただきます。

当日は丁度桜の美しい頃です。大勢の皆様の参加を心からお待ち申し上げます。



大阪リバーサイドロータリークラブ藤井30周年実行委員長挨拶

大阪リバーサイドRC30周年実行委員長の藤井でございます。丁度2年前の玉野RCの40周年記念式典にお招き頂きまして、当時の藤田実行委員長の素晴らしい式典を目の前で窺っておりますが、そのように頑張って30周年記念式典をやりたいと思っております。4月8日(木)は宝塚体育館で11時からご観劇頂きまして、その後移動しましてリーガロイヤルホテルで18時から記念式典を開催したいと思います。



是非、多数のご出席をお願い申し上げます。もしよろしければ奥様とご同伴で来て頂ければと思っております。

スマイル・ボックス

- ・大段様よりスマイル。
- ・大阪リバーサイドロータリークラブ一同様—30周年記念式典よろしく申し上げます。
- ・藤田君、東川君、石川君、三宅(孝)君、島田君、白石君、谷口君、立石君、富永君、渡邊君、山田(孝)君—大阪リバーサイドロータリークラブの皆様、よくいらっしやいました。
- ・東川君、石川君、島田君—寺田様、ようこそいらっしやいました。
- ・東川君、石川君、島田君、谷口君—大段様、ようこそいらっしやいました。
- ・藤田君・高橋君—大段様、卓話ありがとうございます。・三谷君—歓迎会ありがとうございます。
- ・藤田君—2009-2010年度国際ロータリー第38回ロータリー研究会に出席して参りました(11月19日～20日、ホテルグランパシフィック LE DAIBA)。報告は後日行います。
- ・富永君—石川さん、お世話になりました。・渡邊君—公害審査会のため早退致します。

プログラム 『「お客様本位」「社員重視」「社会との調和」を実現する高い経営品質を目指して』

富士ゼロックス岡山㈱ 代表取締役社長 大段 和廣様

2009年5月27日(水)、ウエルシティ広島(広島厚生年金会館)で、2008年度中国地方経営品質賞の表彰式が行われました。お陰様で、お客様・株主・地域社会・社員に支えられて、チャレンジ部門の「チャレンジ賞」を受賞することが出来ました。中国地方経営品質賞は、4つの基本理念(顧客本位・独自能力・社員重視・社会との調和)を基に経営品質活動に取り組むことを目指し、その活動が中国地区全体(鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県)に普及し、中国地方の企業・組織にベスト・プラクティスを共有させることを目標に2004年に設けられました。



中国地方経営品質賞には、エクセレンス賞とチャレンジ賞の2つの賞があります。中国地方経営品質賞の最高位であるエクセレンス賞は地域を代表する企業・組織として賞賛すべき卓越した経営品質の方法・展開と結果が認められた企業・組織に授与されます。チャレンジ賞は経営品質向上プログラムに対する取り組み姿勢が積極的で今後の継続的した活動によって更なる期待が認められる企業・組織に授与されます。エクセレンス賞(1社:鳥取県内企業)とチャレンジ賞(2社:岡山県内企業)の同時受賞は中国地方経営品質賞初めての快挙でした。これを機会に中国地域内の企業・組織に経営品質向上活動が広がることを期待されています。経営品質向上プログラムの基本理念は『卓越した経営』とそれを構成する4つの要素である「顧客本位」、「独自能力」、「社員重視」、「社会との調和」からなっています。経営品質向上プログラムでは、あらゆる組織に共通する経営全体を見る要素として「方法/展開のカテゴリー」が7つあり、結果のカテゴリーへと結びついています。これらを以って審査が行われます。

私が就任しました2005年に、富士ゼロックスの営業戦略に基づき岡山ゼロックス㈱と富士ゼロックス㈱岡山支店の事業統合が行われました。翌年4月には富士ゼロックス岡山㈱に社名を変更して、岡山全県全域のお客様に、営業・保守サービスを行う基幹チャネルとして期待役割が大きくなりました。仕事の進め方、考え方などを融合して1+1が2以上の力が発揮できるよう、全社員が一丸となって進むための道標として新しいミッション・ビジョンを制定してスタートしました。大きく環境が変化した中で、就任して早々に全社の状況を把握する為、社員と意見交換を実施して、経営層への要望事項を自分の目と耳で確認いたしました。事業統合でベクトルを一致させるため、共通言語、新たな仕組みの導入が必要であると認識し、またセルフアセッサー資格を持った社員が数人いたことも後押ししてくれ、経営品質向上活動に取り組みました。高邁ではありますが、①岡山県初の受賞企業となり、県内で経営品質を浸透する企業になり、岡山県の経済発展に貢献したい。②経営幹部は自ら考え、自らが行動し、自らの言葉でメンバーに伝える事を目指し取り組む。③岡山県内での認知度を上げ、新卒人気企業ベスト10位以内に入るような企業になる。この3点を原動力として活動をしてまいりました。「自社は何の為に存在するのか」「自社はどの様な価値観に基づいて企業活動を行うのか」「継続性」「普遍性」「独自性」をキーワードに、ミッションを「5年後当社はこういう姿になっています」「定量目標」「事業ドメイン」「ポジショニング」についてビジョンを経営幹部とともに策定し、ミッション・ビジョンを基軸に事業活動を継続しております。富士ゼロックス岡山㈱は「お客様の企業価値の向上」と「社会の発展」に貢献することを、ミッションとしていますが、このような機会を与えて頂きお話をさせて頂くことも、少しでも社会の発展に貢献できればとの思いで参りました。そして、販売会社は人がベースです。次世代リーダーの育成(自らが考え、行動できる人材)を継続し、顧客本位のプロセス創り、地域販売会社としての独自能力の創造を行うことにより、外部環境に左右されない経営基盤の確立を目指しています。中国経営品質賞の受審にあたり、着任以来取り組んできた『経営品質向上活動』の現在のレベルを確認し、変革し続ける企業の礎を築きたいと、①経営品質賞の受賞が目的でなく、経営品質向上が目的であること、②社外から客観的な審査を受け、変革に向けたアドバイスをもらうこと、③組織一丸となった取り組みの強化をはかること。以上3点を社員に伝えました。

今回のチャレンジ賞受賞で経営品質活動の入り口に立つことができました。この度の審査、評価、アドバイスをしっかりと受け止め、社員とともにこれからも日々革新を継続し、「お客様の企業価値の向上」と「社会の発展」に貢献し、50周年、100周年を迎えられる企業になりたいと努めております。ご清聴ありがとうございました。